

河井醉茗生誕150年記念  
金沢湯涌夢二館企画展

# 竹久夢二 と 河井醉茗

2024年11月2日(土)～  
2025年4月6日(日)

詩人画家・竹久夢二(1884-1934)は、詩人・編集者の河井醉茗(1874-1965)とともに、女学生向け雑誌を中心に、数多くの仕事を手がけました。特に、夢二が売れっ子画家として活躍し始めた明治末期の『女子文壇』(女子文壇社)と華やかで精力的な活動を行った大正初期の『新少女』(婦人之友社)は、いまなお高く評価されています。醉茗は、編集者として夢二に活動の場を提供しました。夢二もまた、醉茗の詩や小説に挿絵を描き、多くの合作が生みだされています。

この度、醉茗旧蔵の雑誌挿絵原画などを中心としたコレクションが当館に収蔵されるはこびとなりました。河井醉茗の生誕150年となる本年、未公開の醉茗宛夢二書簡を含む作品や資料の数々を公開します。



### 竹久夢二略歴

画家・詩人

1884年 岡山県邑久郡(現瀬戸市)生。  
1905年 『直言』20号にコマ絵が掲載される。  
1909年 『女子文壇』に絵を寄せる。  
処女画集『夢二画集 春の巻』刊行。  
1915年 『新少女』絵画主任となる。



### 河井醉茗略歴

詩人・編集者

1874年 大阪府堺市生。  
1895年 『文庫』の記者として詩の欄を担当。  
1899年 第一詩集『無弦弓』刊行。  
1901年 『女子文壇』編集主任となる。  
1915年 『新少女』編集主任となる。



1



2



3

- 1 竹久夢二、河井醉茗宛葉書「十五夜の月を背にして」  
1909(明治42)年、当館蔵(河井醉茗旧蔵)
- 2 竹久夢二、「月夜に百合を持つ和服女性」(仮)  
大正初・中期(1912～1920)、当館蔵(河井醉茗旧蔵)
- 3 竹久夢二、「満願の日」(『女子文壇』7巻6号口絵)  
1911(明治44)年、個人蔵(河井醉茗旧蔵)
- 4 竹久夢二、河井醉茗作「春」(『新少女』1巻1号)  
1915(大正4)年、当館蔵



4

イベントのご案内 ※開催場所はすべて金沢湯涌夢二館内、要入館料。事前申し込み不要。

### 展示解説

担当:学芸員

日時:11月2日(土)、12月7日(土)ほか ※詳細はHPをご覧ください。

14時00分～(30分程度)

### HAPPY BIRTHDAY記念

①夢二ゆかりの女性の誕生日を祝って、当日に先着50名様に

当館オリジナルグッズをプレゼントします。

開催日:3月10日(月)お菓誕生日

※誕生日当日(3月11日(火))は休館日のため、繰り上げて実施します。

3月29日(土)笠井彦乃

②期間限定で等身大のお菓、彦乃のタペストリーと記念撮影できるスペースを設けます。

開催日(お菓):3月8日(土)～16日(日)

開催日(彦乃):3月22日(土)～30日(日)

休館日:毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)

年末年始(12月29日～1月3日)

2月11日(火・祝)は開館・翌12日(水)休館

開館時間:9時～17時30分(入館受付は17時まで)

観覧料金:一般・大学生310円、団体(20名様以上)260円

65歳以上210円(祝日無料)、高校生以下無料

【交通案内】・金沢駅よりタクシー約30分

・金沢駅兼六園口より北鉄バス「湯涌温泉」行き約45分

・北陸自動車道金沢東インターより約45分

・金沢西インターより約50分、金沢森本インターより約30分

・兼六園(金沢市中心部)から車で約20分。

### わくわくスタンプラリー

館内に設置されている夢二図案のスタンプを3つ集めた方にオリジナルグッズをプレゼントします。

開催日:毎月8、9、18、19、28、29日(休館日を除く)



金沢ミュージアム+ <https://kanazawa-mplus.jp>

ウェブサイト「金沢ミュージアム+(プラス)」では、金沢市が所蔵する様々なコレクションを公開しています。当館所蔵作品の画像データや詳細な作品情報もご覧いただけます。

